

令和6年度 杉並区立桃井第五小学校 経営・評価計画「自己評価報告書」・「学校関係者評価報告書」

校長 佐野 篤

令和6年度 杉並区立桃井第五小学校 経営・評価計画「自己評価報告書」・「学校関係者評価報告書」								学校関係者評価委員会委員			
目標体系								評価			
杉並区の教育ビジョン	「みんなのしあわせを創る 杉並の教育」 ◇学び合い、信頼をつくり、共に生きる ◇ちがいを認め合い、自分らしく生きる ◇誰もが社会の創り手として生きる								委員長 天野 博之(CS)		
学校の教育目標	『やさしく かしこく たくましく』								委員 唐澤 弘子(CS) 石井 雅幸(CS) 津吹 猛司(CS) 丸山 麻雄(CS) 伊藤益子(CS) 白瀬 理恵(CS)		
経営方針	○全ての子供たちを全教職員で支援する ○学校をオーブンにして多様な風を入れる ○変化を恐れずに試行錯誤し、協働する。								大川 直子(CS) 田中 哲(CS) 天野 由紀子(CS)		
大切にする学校像	『やさしさとしあわせがあふれる桃五小』 ○自分が成功したり、成長したりする喜びを「しあわせ」と感じる人を育てるのはもちろんのこと、人を助けたり、役に立ったりする喜びを「しあわせ」と感じる人を育てる。桃五小に「しあわせ」を引き寄せる5つの習慣 「○しせい ○あいさつ ○ありがとう ○わらい ○せいとん」										
大切にする児童像	○「自立」自分でよく考えて、自分らしく行動する。 ○「共生」多様さを認め、人を大切にする。 ○「寛容」自分の中に、「やさしさ」を育てる。								5	優れている	
大切にする教師像	①自らよく考え、子供自身の成長を大切にし、日常の授業の質の向上に努める教師。 ②ICT等の教育環境の変化を楽しみ、教員相互に学び合い、支え合い、高め合う教師。 ③保護者、地域の願いを共感的に聞き取り、積極的な情報発信を行い、密なる連携ができる教師。								4	良い	
									3	普通	
									2	もう少し	
									1	悪い	
令和6年度 経営計画・評価計画											
区分	重点目標	評価指標・評価基準	目標実現のための方策	結果と成果	児童	保護者	教員	評価	学校関係者評価委員		
経営方針の浸透	「やさしさ」と「しあわせ」があふれる桃五小をスローガンにし、児童の主体性を育む。児童の主体性を育む。児童の主体性を育む。	○職員会議、保護者会、学校運営協議会等で、学校経営方針を丁寧に説明する。学校だよりや全校朝会で、積極的に発信していく。	・「やさしさ」と「しあわせ」があふれる桃五小をスローガンとし、4月に学校経営方針を載せた学校要覧を作成配布した。全校朝会等で、誰かを助けたり、役に立ったりすることを多く取り上げた。毎月の学校だより巻頭言で発信した。	3.66	3.49	3.78	3.33		○年度初めの委員会紹介集会を見た時、児童が司会進行をしていて、とてもよかったです。90周年記念セレモニーも同じように子供たちが主体の教育活動になっていた。「やってみたらこうなった」ではなく、子供たちが作り上げるという想定の下に、学校行事を実行できていた。		
施設設備	安全を第一に、給食室の全面改修と芝生校庭の維持管理を行う。	○学務課、工事業者、PTAとの連携を図り、安全な工事と弁当対応ができるように準備する。	・12月中旬に給食室改修工事が完了した。7月から毎週月曜日に備蓄課、業者等と打ち合わせを行った。	4.02	3.74	4	3.78		○校庭芝生の評価が「4」と、児童に定着してきた。「ポット苗づくり」も子供の態度がとてもよく、芝生の赤ちゃんを育てようと言って、大切にしている気持ちが伝わってきた。「転んでも怪我をしなかったんだよ。」と言っていた子供もいた。養生期間のメリットもあるが、メリットも多い。		
心を育てる	「青少年赤十字」活動を推進し、心の教育に努める。	○地域とともに20年間も守り育ててきた校庭芝生が、環境教育や健康教育の中で生かされ、みんなの誇りとなるように各部会で検討する。	・日常的な芝生校庭の管理を副校長、地域、保護者、業者と実施し、過去最高の芝生が維持できた。学校だよりで「桃五の奇跡の芝生」について発信した。これまでの歴史をまとめた「芝生化20周年記念リーフレット」を発行した。	3.73	3.33	3.67	2.89		▲生活時間が変わることについて、事前の説明がなかった。変わることに寛容でない人もいるので、説明の仕方を工夫して、替わることがよいことだと思えるようにすべきである。		
学びに向かう力	1人1台のタブレットPCを積極的に活用し、学びに向かう力をつける。	○1人1台のタブレットPCを有効活用し、ICT(1人1台タブレット、電子黒板、デジタル教科書、プロジェクター等)を活用した授業を推進する。家庭学習についても、タブレットを活用した宿題に取り組む。	・8月に児童用GIGAタブレットの入れ替えと電子黒板(BIGPAD)が各教室に整備された。校内研修を活用して、使用方法を周知するとともに、「個別最適化の学習」「協働的な学習」の手段となるように活用した。	3.96	3.55	3.81	3.56		○1人1台タブレットは、補習で活用すると成果を上げられるので、学びに向かう力の育成に効果的である。		
教育支援	だれ一人として取り残さない教育支援の理解と充実に努める。	○「全ての子供たちを全教職員で支援する」という方針のもと、生活指導終会等で情報共有を行い、登校しぶりや不登校、問題行動には、教育支援コーディネーターを核に組織的に対応する。	・毎週金曜日の生活指導会で、学年ごとの情報共有を行った。毎月の職員会議で教育支援の時間を設けてきたが、2学期よりタビ会に統合し、よりタイムリーな情報共有した。	3.87	3.44	3.7	3.67		○母親の付き添いで登校していた児童が、1人で登校できるようになった。多様な背景を抱える子供たちのために、校内に居場所をつくる「ももごラウンジ」は、地域の方が英語教室や裁縫などを教えてくれて、成果が出ている。		
連携教育	小中一貫教育、幼保小連携、地域連携の充実を図る。	○中瀬中、八成小との小中連携では、特別支援教育の研修を行うとともに、教育支援についての情報共有を図る。	・小中連携では、7月の合同研修会で八成小の授業を参観するとともに、教育観を磨くための講演会に参加した。9月に中瀬中学校で、「中学校生活についての対話型説明会」を4校合同(中瀬、八成、沓掛、桃五)で実施した。	3.21	3.28	3.52	3.33		○地域との連携行事で、突き立てのお餅を子供たちに食べさせることができた。餅つき大会は、井口会長の協力が必要であり、地域が桃五を大切にしてきたという証である。		
体育健康教育	体力向上と心の健康づくりに取り組む。	○第6学年については、「学校見学」「部活動体験」「体験授業」等を計画的に実施する。	・幼保小連携については、近隣幼稚園、保育園、子供園との「小学校体験等」の交流活動を積極的に実施する。	3.99	3.42	3.59	3.33		▲校庭芝生化20周年は、ここまで糸余曲折を重ねながらも、大澤会長が長年携わって維持してきた。この奇跡の芝生の歴史を、もっと知ってもらいたい。		
特別活動	子供の自主的、実践的な特別活動を推進する。	○高学年への「あこがれ」、低学年への「やさしさ」をテーマに、委員会集会や縦割り班集会等の異学年活動を実施する。	・今年度の学校スローガンを代表委員会で話し合い、「皆の輝き90周年桃五小」(かっこいい・頑張れる・やさしく・協力し合える)とした。児童玄関に張り出し、ハワースポットであることを伝えた。	3.83	3.68	3.93	3.56		○スポートDAYは子供たちが一生懸命やっていて、多くの人に見せたいほどであった。ミュージックDAYも感動した。		
開かれた学校運営	多くの大人の力を借りる「オール桃五」の学校創りを行う。	○PTAと連携し、保護者の理解や協力を得ながら、子供たちが安全で、充実した学校生活が送れるようにする。また、学校公開を毎学期1回実施し、アンケートをとて改善に生かす。	・PTAとの役員会、運営委員会に参加し、学校の状況を伝えて理解を得るとともに、要望等の意見を伺うことができた。	3.98	3.78	3.77	3.33		▲来校者の誘導には課題がある。車椅子の保護者への対応を検討しておく必要がある。		
働き方改革	教職員の働き方改革を推進するとともに、学び合い高め合う教職員を育成する。	○出退勤入力により、各自がタイムマネジメントを意識し、ひと月当たりの残業時間の上限を30時間以内になるよう努力する。	・残業時間の平均は、4月35H、5月27H、6月29H、7月18H、9月24H、10月28H、11月24H、12月20Hで、目標を達成している。			4	3.63		○学校行事の受付やゲストティーチャーの人選など、教員がやるのは難しいことを、地域が協力することができた。		